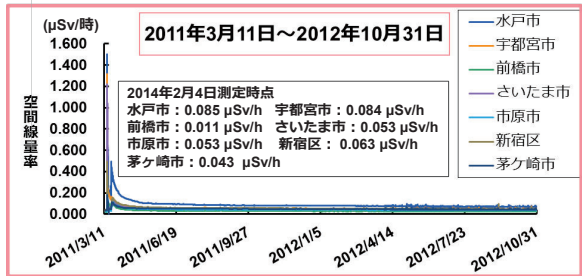
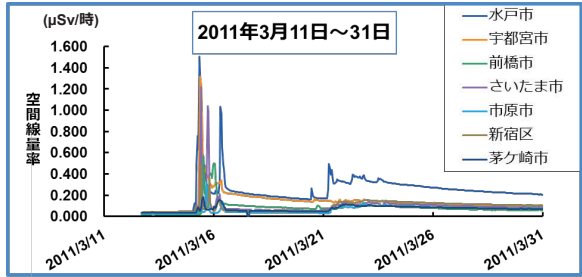


μSv/h : マイクロシーベルト/時



文部科学省環境放射能水準調査結果、環境放射線データベース*より作成 ※：現在は原子力規制委員会が担当

関東地方の都県のモニタリングポストの所在地は、福島第一原子力発電所から近い順に、水戸市 (130km)、宇都宮市 (140km)、前橋市 (210km)、さいたま市 (210km)、新宿区 (230km)、市原市 (230km)、茅ヶ崎市 (270km) となっています。各地点の空間線量率の推移をみると、関東地方には2011 (平成 23) 年 3 月 15 日から 22 日の 1 週間間に放射性物質が移動してきたものと考えられます。その後、空間線量率が事故前のレベルに下がらなくなった理由としては、地上に放射性物質が降下し、沈着したことが考えられます。

なお空間線量率のデータは、2011 (平成 23) 年 4 月から 2012 (平成 24) 年 3 月は環境放射線データベースのデータを、2011 (平成 23) 年 3 月と 2012 (平成 24) 年 4 月以降は環境放射能水準調査結果を用いています。

本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日

改訂日：2014 年 3 月 31 日

本情報は事故当日 (2011 年) ~ 2014 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウェザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA17 モニタリングポストの測定値と、実際に線量計で測定した値が異なるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA18 空間線量率のグラフを見ると、突然、空間線量率が一時的に高くなることがあります。どうしてですか
- ・ 3 章 QA19 天候に変化が無いのに、空間線量率が一時的に高くなるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA20 放射能事故等の測定データへの影響は、空間線量率の変化にどのように表れるのですか